

啐啄

平成31年4月11日(木)

岡崎市立豊富小学校長

倉地 耕治

■ 41人の仲間が入学しました

4月1日、新しい元号「令和」が発表されました。新しい時代の幕開けのように思え、とても新鮮でした。5日、新しい時代の新入生41人が入学しました。前日までの寒さも峠を越え、桜咲く豊富小に全員が参加できてとてもうれしく感じました。また、20名を越えるご来賓をお招きし、子どもたちの様子を見守っていただきました。豊富小学校の子どもたちを、ともに育てる皆様と入学を祝えたこともとてもうれしいことでした。



一人一人名前を呼ばれ、元気に返事をする1年生

さて、入学式で子どもたちにお願ひしたのは、「あいさつをしましょう」という1点です。

あいさつは、人と人の心の交流の始まりです。「おはよう」から「さようなら」までもあいさつですが、「ありがとう」や「ごめんなさい」など、相手に対して素直に思いを伝えるあいさつも大切です。「とよとみしぐさ」にもあります。

■ 「とよとみしぐさ」に込められた思いを

この「とよとみしぐさ」ですが、今から6・7年前、本校が研究発表を行った頃に考案され、受け継がれてきました。研究紀要には、次のように書かれています。

「とよとみしぐさ」には、「生活習慣」「学習規律」にかかわる文言が並んでいる。これらはどの学校にも共通することである。ただし、本校では「しぐさ」という文字を漢字では「仕える草」ではなく「思う草」と書く。とよとみしぐさの一番の根本は「他者の『思い』を受け止めること」である。つまり、「トイレのスリッパを揃える」その瞬間に、「次に使う人の姿を思い浮かべることができる」ようになって初めて「とよとみしぐさができた」ととらえるわけである。<以下略>

あいさつをすることをとっても、相手のことを思ってあいさつをすることが「とよとみしぐさ」につながります。「ありがとう」「ごめんなさい」というとき、相手へ思いを伝えたくて、相手のことを思って言います。その相手意識を大切にしているのです。次に使うであろう「誰か」のことを思ってトイレのスリッパを揃え、道具を片付けるのです。人のことを思う温かい心を育ていけるように「とよとみしぐさ」に込められた願いを伝えていきたいと思ひます。

■ 「シナミザクラ」の看板が付きました

玄関に入って、正面の階段を職員室へ上がると、踊り場越しに桜の木があります。ところが、もうすっかり葉桜です。満開は2月だったと聞きました。「シナミザクラ」(支那実桜)という種類で、中国原産の早咲きの桜だそうです。

